

平成 23 年度第 3 回松阪市環境基本計画策定委員会

日時 平成 23 年 6 月 20 日(月) 9 時 30 分～12 時 00 分

場所 松阪市役所 第二分館 2 階教育委員会室

概要

1. 総合計画について
2. 松阪市環境基本計画の検討
 - ・第 3 章(めざすべき環境像と環境ビジョン)
 - ・第 4 章(環境目標)
3. その他

出席者 10 名

委員会委員 7 名

西孝(委員長)、大泉千花、中村陽子、中山翼、村林守、山際京子、横井美登

事務局 3 名

三田環境課長、山口環境推進担当主幹兼係長、環境推進係(垣本)



内容

前回の検討結果について

※事務局より、前回の検討結果を受けて修正した「環境基本計画第1章、第2章」の報告を行い、委員全員から承認された。

松阪市環境基本計画 第3章・第4章の検討

※事務局より、第3章の変更点を説明。

- 委員 : 前回の会議で平易で分かりやすい文章を望むと言ったが、P3 下『当たり前にある～取り組みます。』の中で使われている『素敵』という単語は、行政にはふさわしくないように感じる。抽象的で似つかわしくない。
- 事務局 : この文章は総合計画からの引用であるためここでは修正できないが、環境基本計画の中では使わないようにすることは出来る。
- 委員 : 総合計画では3ヶ所使われているが、環境基本計画では使わないようにする。
- 委員長 : 総合計画からの引用であるので、ここはこのままで。P4『環境林』の用語解説が必要ではないか。
- 事務局 : 本書巻末の用語解説に載っている。
- 委員長 : ここは大きな変更が無いので OK。
- 委員 : 『地域に根ざした～』とあるが、これだと地域的なことだけで、全体的なことに触れていない。例えば、市民活動センターの登録団体なども入れたほうがいい。
- 委員長 : 松阪市域全体の活動団体も入るような表現にした方がいい。
- 委員 : 環境団体も意識して明記すべき。
- 委員長 : 趣旨は問題ない。
- 事務局 : P7 のゾーン別図だが、これは前回の総合計画に基づいたものであり、今回はこのような区分けをしていない。新総合計画では、基本構想で地域政策として本庁管内、嬉野、三雲、飯南、飯高の5つに分けている。環境基本計画も、総合計画との整合性を図るべく地域別にすべきなのか、皆さんに検討して欲しい。
- 委員長 : 総合計画との整合性から、環境基本計画も地域別に考える必要があるが、このゾーニングはこのまま活かさないものか？
- 委員 : これは松阪市全体からみて考えられたものであるが、今回の総合計画では地域ごとに考え、各地域でまちづくりをしていく。それぞれの地域にあった施策に取り組むという地域主体性の考え方であるので、環境基

本計画もそれに合わせるべきである。それぞれの地域審議会の持つ将来像を踏まえて、各地域にあった環境施策に取り組むような方向性でいったほうが良いと思う。

委員長 : ゾーニングをやめて、総合計画の基本計画の地域政策から環境に関するところを抜き出して、環境基本計画に反映させるということだが。

委員長 : 総合計画の地域重視を反映させるように。では、次の第4章へ。

※事務局より、第4章の変更点について説明。

委員長 : 最終年度が平成29年度になるため、平成27年度の目標値をどうするのかを検討する。基準値を変えることは出来ないので、この目標値をそのまま29年度の目標値にするのかということだが。この都市公園面積だが、この値はこれでいいのか？

事務局 : これは国の「都市計画中央審議会」が示した人口一人当たりの公園面積を、そのままこの目標値にしている。

委員 : 松阪市がこの数値に到達できる根拠は何か？何か計画があるのか？あくまでも理想であって、現実は違うと思う。

事務局 : 平成22年度は『8.48 m²/人』と、目標値とはだいぶかけ離れている。

委員長 : 目指すべき目標値は国の値であり、都市によって事情が違うので、全国一律同じとはいかないと思う。

事務局 : ちなみに、平成21年度の国の一人当たりの公園面積は『9.6 m²』、県は『9.2 m²』である。

委員 : その数値は参考に載せておくべき。生活排水処理も、この数値は達成できるのか？

事務局 : この目標値は下水道、農業集落排水、合併浄化槽を含めた数値であり、環境基本計画の目標値が指標となっている。

委員長 : 公園の数値はどうするか。

事務局 : 担当部署が検討中であり、次回には報告できると思う。

事務局 : P17 ゴミの排出量だが、担当部署がまだ最新の目標値を定めていない。しかし、ゴミの排出量は減ってきているので、もう少し低い目標値になると聞いている。

委員 : ゴミが減っている根拠は？

事務局 : 市民のゴミ分別や再資源化の徹底、努力によると思われる。

- 委員 : 目標数値は進捗を見ながら検討する。順調に目標に近づいて減っているならば、2年後の数値を下方修正すべき。しかし、ゴミは努力の限界があって、減りづらい。市民も含めた削減運動に取り組んでいかないと。環境基本計画は市民と一緒にやっていくものであり、難しいことはなかなか出来ない。そういったことから、下方修正は難しいと思う。財政的に制約があるものは目標数値を説明しやすいが、そうでないものは説明ができてにくい。説明ができなければ、目標数値を変更しなければならない。
- 委員長 : 目標数値を2年後にそのまま持つていくには、それなりの理由が必要。理由がなければ、2年後の目標値は修正すべき。目標数値を下げて理解は得られると思うので、見直してはどうか。担当部署と検討して欲しい。
- 委員 : 現実的に可能な値にするべき。努力目標には限界がある。
- 委員長 : アンケート調査の目標数値だが。
- 委員 : このアンケート以降、一度もアンケートを行っていないということなので、これは目標として挙げても仕方ないと思う。常にアンケートを行って現状を把握しないと、この目標値は意味が無い。アンケートは、目標からはずすべき。
- 委員長 : アンケート以外に分かる資料があればいいが。
- 委員 : 目標値を置くのではなく、数年毎にアンケートを行って、その結果を推移として載せた方がいいのではないかな？
- 委員 : アンケート結果を目標値にしないとすると、問題が2つ出てくる。6つの環境ビジョンの内、『多様な生き物が～』に対応する『身近な生き物～』という環境目標が無くなる。そうすると、新たな環境目標の設定が必要となるが、ネイチャーマップやデータベース等で、果たしてこれに代わる目標に置き換えられるのか？また、『20年・30年先の～』に対応する『パートナーシップ型～』が無くなるが、これは環境イベントの参加人数などで対応できるのか？このように2つの環境ビジョンに対応する環境目標が全く無くなってしまうことになるので、こういったことを考えないといけなくなる。
- 委員長 : アンケートに代わるような案を出して欲しい。
- 委員 : P18のグラフだが、これだけでは判断できない。電気のみ載せるというのはどうなのか？
- 委員長 : エネルギー消費量なので、電気のみでなくガスのデータも載せればどうか。

- 委員 : 二酸化炭素削減から考えれば、ガスのデータも必要だと思う。電気だけ減らしても意味が無い。
- 委員長 : ガスのデータは取りにくい。参考程度に載せるくらい。
- 委員 : 参考データが足りない。新エネルギー関係を参考として載せる。
- 委員長 : 目標となるとちゃんとしたものを出さないといけないので、参考程度に載せるといい。
- 委員 : 新エネルギー関連のものを把握していくということが大事。
- 委員長 : 目標としての値は？
- 委員 : 『これ以上増やさない』でいいと思う。
- 委員 : 平成 29 年度の目標だが、きちんとした数値を出すべきなのでは？
- 委員 : 望ましいのは減らした方がいいが、実際のところCO2 は増えている。なので、現実的な目標として『増やさない』とするしかない。
- 委員 : 数値の羅列だけでなく、もう少し分かりやすく、身近な行動などで表して欲しい。6 つの環境ビジョンのところに目標値を示して欲しい。
- 委員長 : 冊子にする時に、見やすくなるように工夫する。目安のようなものがあればわかりやすいので、何らかの形で具体的行動を示すことができればいい。
- 事務局 : 目で見て分かりやすいような方法を用いる。
- 委員 : P22 とP12 の「市、市民、市民団体、事業者」の並びが違うのはなぜか？。
- 事務局 : これは、その時々において主体となる立場を先頭においているため。

その他

- 委員長 : 他に何か？
- 委員 : 分かりやすい環境基本計画を、という観点からすると、この第 5 章以降の表記方法を考えた方がいい。第 5 章に行政の施策、第 7 章に市民、市民団体、事業者の行動、と主体別に分かれているが、「一緒にやってみよう」というコンセプトからすれば、これらは目標別にまとめて、全部一緒に載せた方がいい。そのほうが相互関係や関連性もよくわかるし、見た目にもより分かりやすい。
- 事務局 : 一度、考えてみる。
- 委員長 : 次回は 7 月 25 日 9 時半から。今日はこれで終わります。